東日本大震災復興支援
つながろう CO-OP アクション

くらし・地域復興応援募金 被災地応援ニュース

みやぎ便り

No.9
2017年4月28日発行
4月号
日本生協連
組合員活動部

被災地は今、住宅再建のほか、防潮堤の建設、震災遺構の保存など様々な工事で日々変化しています。その変化の状況を写真でまとめた資料「被災地の変化とみやぎ生協の活動」を作成しました。被災地を訪れる際や復興応援企画などでご活用ください。みやぎ生協ホームページからダウンロードできます。http://www.miyagi.coop/support/shien/

支援と備えを見直そう　3.11を忘れない取り組み

震災を語り継ぐことや、支援の継続・備えの大切さなどを多くの方に知っていただくために、2～3月にすべてのこ～ぷ委員会がエリアごとに、被災された方々の手作り商品販売や防災用品の展示･試食などに取り組みました。この取り組みは2013年から毎年行い、5回目となります。その一部をご紹介します。

【古川南店・古川北・遠田志田･加美玉造合同】

非常食レシピの紹介や試食、手作り商品販売、気仙沼市の当時や今の写真展示などを店内で行いました。

【八木山店・西多賀店・仙台西・緑ヶ丘合同】

「小さな命の意味を考える会」代表の佐藤敏郎さんの講演会を開催し、命の大切さを学びました。

【気仙沼メンバー集会室ぽけっと】

当時、簡単に作れて温かいタオル帽子を作って寄付したことを思い出し、作り方を改めて学びました。

【塩釜栄町店】

できるだけ水や電気を使わず、缶詰やビニール袋を活用してエコなクッキングに挑戦しました。

【幸町店】

ローリングストックにおすすめな商品の展示のほか、乾燥野菜などを使い、火や水を使わずに作れるレシピの紹介と試食も行いました。

【西多賀店】

ローリングストックや、備蓄品の日付チェックを呼びかけ。乾電池にも期限があることなどもお知らせしました。

塩釜市伊保石仮設住宅お別れ会　笑顔でまた、お会いしましょう！

塩釜市内では、計画された３９０戸の災害公営住宅がすべて完成し、仮設住宅は３月末で全て閉鎖となるため、最後のふれあい喫茶でお別れ会を開催しました。2012 年からこれまでの思い出話で盛り上がり、「ふれあい喫茶がこのまま終わるのは寂しい。ぜひ公営住宅でも開催して」との声が寄せられました。支援を続けてきたボランティアの皆さんが、４月から同市内の地域集会所で「ふれあいカフェ」を開催するとのことで、皆さんへ参加のお誘いをしました。

～気仙沼メンバー集会室ぽけっとの“さわやかお茶会”最終回～

2011 年６月から気仙沼メンバー集会室で開催してきた「さわやかお茶会」が 65 回目で最終回を迎えました。最後と知り駆けつけてくれた仮設住宅で知り合った方から「あんたたちのおかげでここまで来れた。ご苦労様でした」とうれしい言葉を頂きました。お茶会の最後にボランティアサポーターが一言ずつ想いを話し「自分は被災していないから、被災された方にどんな声掛けをしたらいいのか？どうしたらいいのか？と、悩んだこともありました」など、今だから口に出せることを話す人もいました。いつも参加される方から「もう、ここでのお茶会はないの？」「来月から行くところなくなる…」と心配の声もありましたが、地域の誰もが気軽に参加できるみんなの居場所　“ふれあいカフェ・はまらいんや”がボランティアサークル主催でスタートすることをお知らせし、ほっとされていました。

住まいの再建に関する調査結果

東日本大震災から丸 6 年が過ぎました。生活再建のすすみ具合の地域差や個人差のほか、高齢化、孤立化などの新たな課題が出てきています。以下は主な特徴です。（2017 年３月末現在）

- 宮城県内では未だ２万人近い方が仮設住宅で生活しています。災害公営住宅の完成率は宮城県全体では約 85%ですが、30%程度の地域もあり、仮設住宅での生活が続く方もいます。
- 沿岸部では震災前より 20～30%も人口が減少した地域があります。地域によっては、人口が減少したのに世帯数が増加し、１世帯当たりの人数が減少したところもあります。
- みやぎ生協のふれあい喫茶に参加される方の中には、集合住宅型の建物に馴染めず「出かけるのが怖い」「近所に知っている人がいない」「話し相手がいない」と話される方がいます。転居先でのコミュニティづくりが課題となっています。
- 災害公営住宅の家賃低減制度は５年間のため、高齢などで経済的な不安を抱える方もいます。

発行　日本生協連　組織推進本部　組合員活動部
電話 03-5778-8124　Fax 03-5778-8125
担当　小池、住吉